

# 大型輸送ヘリで患者搬送の訓練 DMAT

平成 30 年 2 月 19 日、群馬県榛東村の陸上自衛隊相馬原駐屯地で、大型輸送ヘリコプター CH-47 を使った DMAT の「広域医療搬送実地研修」が行われました。訓練には、関東から北海道まで 9 チームの DMAT40 人が参加。城西病院 DMAT も初めて参加しました。

訓練は、被災傷病者をヘリコプターで被災地外の医療施設に搬送するための拠点 SCU（広域医療搬送拠点）として同駐屯地を位置付け、実際にヘリコプターを使い、ヘリでの搬送や救急初期治療などを輸送中の大型ヘリコプターの中で体験することを目的に実施されました。

CH-47 輸送ヘリコプターは、患者 24 人を一度に搬送できる大型ヘリで、このヘリを実際に使った訓練が行われました。

訓練は、CH-47 への傷病者の搬送や機内での固定の仕方、実際に飛んでいる CH-47 内での傷病者の容態観察や DMAT 同士のコミュニケーション、そして自衛隊員との連携などが行われました。

訓練に参加した隊員は、「ヘリコプターの中では騒音が激しく、会話ができない状態でした。いかにほかの人とコミュニケーションを図っていくかが大切に感じました」と話していました。また、DMAT の医師は「参加した病院は、救命救急にたけている病院が多かった。その中で、2 次救急病院として、比較的地域の高齢者を多く診ている城西病院だからこそできる災害時の役割も考えていきたい」と話していました。

平成 30 年 2 月 21 日

